3　国　語

○内容の構造と概要

国語科の内容は[知識及び技能]及び[思考力、判断力、表現力等]で以下のように構成されています。またこれまでの国語科の内容や解説に示された事項について、その系統性を整理して示しています。

[知識及び技能]

（１）言葉の特徴や使い方に関する事項

「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「音読」

（２）情報の扱い方に関する事項（小学部３段階から設定）

「情報と情報との関係」「情報の整理」

（３）我が国の言語文化に関する事項

「伝統的な言語文化」「書写」「読書」

[思考力、判断力、表現力]

A 聞くこと・話すこと

「話題の設定」「内容の把握」「内容の検討」「構成の検討」「表現」「話合い」

B 書くこと

「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「記述」「推敲」「共有」

C 読むこと

「構造と内容の把握」「考えの形成」「精査・解釈（高等部から）」

○表の見方

・[知識及び技能]及び [思考力、判断力、表現力等]に示す各内容は、１段階及び２段階では扱っていないものがあります。表の項立てについては、分かりやすい表現にしたものもあります。

・各段階の内容は、児童生徒の日常生活・社会生活に関連のある場面や言語活動、行動と併せて示しているものがあり、学習指導要領解説の詳しい内容から抜粋して表記しています。

○教科の特質や作成者の思い

解説の「指導計画の作成と内容の取扱い」にある配慮事項では、文字に関する事項が具体的に示されています。国語科以外の生活と関連付けた指導の工夫なども示されていますので、読んでいただくと指導内容の作成に役立つと思います。

国　語

目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について，その特質を理解し使うことができるようにする。
思考力，判断力，表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け，思考力や想像力を養う。
学びに向かう力，人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

段階の目標	小１段階	小２段階	小３段階
知識及び技能	ア　日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに，いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア　日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに，いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア　日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に触れ，親しむことができるようにする。
思考力，判断力，表現力等	イ　言葉をイメージしたり，言葉による関わりを受け止めたりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合い，自分の思いをもつことができるようにする。	イ　言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合い，自分の思いをもつことができるようにする。	イ　出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け，思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力，人間性等	ウ　言葉で表すことやそのよさを感じるとともに，言葉を使おうとする態度を養う。	ウ　言葉がもつよさを感じるとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ　言葉がもつよさを感じるとともに，図書に親しみ，思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

内容		小１段階	小２段階	小３段階	
知識及び技能	ア　言葉の特徴や使い方	(ｱ) 日常生活の出来事や興味や関心のある事柄について，教師など身近な大人や兄弟，友達からの話し掛けに耳を傾け，人との関わりの中で言葉が用いられていることに注意を向ける。やり取りを繰り返す中で言葉と事物とが徐々に一致してきたり，自分なりの表現を繰り返す中で要求が相手に伝わり，心地よい感情をもったりする。	(ｱ) 様々な人の話し言葉，テレビやラジオなどの媒体を通した音声の口調や速度に聞き慣れ，身近な人との関わりから，言葉を用いることで，自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることを感じる。	言葉の働き	(ｱ) １段階，２段階を踏まえ，言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。
		—	—	話し言葉と書き言葉	(ｲ) 姿勢や口形に気を付けて話す。背筋を伸ばし，声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すことや正しい発音のために，唇や舌などを適切に使う。
		—	(ｲ) 日常の学校生活の中で見たり使ったり触ったりしている，身近な事物や事象を表す平仮名を読む。例えば，自分や友達の名前や絵本などに出てくる動物等の名前から扱う。		(ｳ) 絵本や易しい読み物，わらべ歌，テレビやコンピュータの画面に出てくるよく使う促音，長音等の含まれた語句，平仮名，片仮名，漢字の正しい読み方を知る。
		(ｲ) 様々な言葉を聞いたり，音声の高低や抑揚などの違いによる意味の違いに触れたり，実際の事物などを見たり触ったりして実感をもたせながら，言葉と事物を結び付けていくことや，絵などを用いて生活経験からいろいろなことを想起したり，それらを言葉と結び付けて表現したりしていく。	(ｳ) 身近な人との会話を通して，物の名前や動作など，いろいろな種類の言葉を聞いたり，自分でも話したりする。	語句と語彙	(ｴ) 言葉には，ある語句を中心として，同義語や類義語，対義語など，その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合があることに気付く。
		—	—	文や文章	(ｵ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により，意味が変わることを知る。
		—	—	言葉遣い	—

国語

目指す。

(1)日常生活や社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(1)社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2)日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。	(2社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	(3)言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

中１段階	中２段階	高１段階	高２段階
ア　日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア　日常生活や社会生活，職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア　社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
イ　順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ　筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ　筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
ウ　言葉がもつよさに気付くとともに，図書に親しみ，国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	ウ　言葉がもつよさに気付くとともに，いろいろな図書に親しみ，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ　言葉がもつよさを認識するとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中１段階	中２段階	高１段階	高２段階
(ｱ)身近な大人や友達とのやり取りを通して，言葉には，出来事や事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付く。	(ｱ)日常生活の中で周りの人とのやり取りを通して，言葉には，思考や感情を表す働きと他者に伝える働きの両方があることに気付く。	(ｱ)社会生活に係る人とのやり取りを通して，場を広げた社会生活で用いる言葉にも日常的に用いる言葉と同様に思考や感情を表す働きと他者に伝える働きがあることに気付く。	(ｱ)社会生活に係る人とのやりとりを通して，言葉には，人との好ましい関係を新しく築き，継続させる働きがあることに気付く。
(ｲ)相手に内容を正確に伝えるために，発声や声量に注意しながら話したり，姿勢や口形などに注意したりして話す。	(ｲ)聞き手にはっきりと聞き取れるような発声や発音をしたり，音声が明瞭に聞こえる速さや相手に声が届く音量などに注意したりして話す。	(ｲ)相手を見て話したり聞いたりするとともに，間の取り方などの話し方に注意して話す。	(ｲ)伝えたい場面や目的に合わせて実際にやりとりを繰り返す中で，話し言葉と書き言葉，それぞれの特色や役割に違いがあることに気付く。
(ｳ)日常生活や社会生活で用いられる語句や文，文章を読んだり書いたりすることを通して，長音，拗音，促音，撥音，助詞の正しい読み方や書き方を知る。	(ｳ)長音，拗音，促音，撥音などの表記や助詞の使い方を理解し，文や文章の中で使う。	(ｳ)漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点の使い方を意識して打つ。	(ｳ)文や文章の中で読みやすさや意味の通りやすさを考えて，漢字と仮名を適切に使い分けて書く。
(ｴ)言葉には，意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに，語句には同義語や対義語，上位語・下位語，同音異義語，多義的な意味を表す語句などがあることに気付く。	(ｴ)理解したり表現したりするために必要な様子や行動，気持ちや性格などを表す語句の量を増し，自分の語彙として身に付け，使える範囲を広げる。	(ｴ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には，物の名前，動き，様子を表す語句といった性質による語句のまとまりや文の主語，述語，修飾する語句といった役割による語句のまとまりがあることを理解する。	(ｴ) 社会生活の中で表現したり理解したりするために必要な語句に加え，思考に関わる語句（「だから」「しかし」「考える」「だろう」など）の量を増し，話や文章の中で使うことを通して，言葉への関心を高め，さらに語彙を豊かにする。
(ｵ)主語と述語の適切な係り受けを理解するとともに，前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語句の役割を理解する。	(ｵ)修飾と被修飾との関係，物事を指し示す役割をもつ語句について理解する。	(ｵ)接続する語句（つなぎ言葉）の役割，段落（形式段落，意味段落）の役割について理解する。	(ｵ)文と文との接続の関係，話や文章の構成や種類（紹介，提案，案内，指示書や説明書）について理解する。
(ｶ)丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けることに気を付けて話す。	(ｶ)敬体と常体があることを理解し，相手や目的を意識して表現する際に，敬体と常体との違いについて注意しながら書く。	(ｶ) 学校内や職場実習等の学校外での様々な立場の人々と関わりの中で必要になる尊敬語や謙譲語などを理解し使う。	(ｶ) 日常よく使われる敬語を理解し，相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れる。

国語

内容		小１段階	小２段階	小３段階	
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方	－	－	音読	(ｶ)正しい姿勢で音読すること。
	イ 話や文章中に含まれている情報の扱い方	－	－	情報と情報との関係	(ｱ)物事の始めと終わりなど物事の内容を表す言葉の働きに気付き，情報と情報との関係について理解する。
		－	－	情報の整理	(ｲ)目的をもって図書資料を読むために，図書を用いた調べ方を理解し使う。
	ウ 我が国の言語文化	(ｱ)昔話のほか，わらべ歌や言葉遊びなどについて，読み聞かせを聞き，独特の語り口調や言い回しに含まれる言葉の響きやリズムを感じたり，物語の一場面を簡単な言葉で唱えたり，動作化したりして，親しむ。	(ｱ)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり，昔話の語り初めの一部を模倣したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむ。	伝統的な言語文化	(ｱ)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，真似をしたり，簡単な劇や音読を発表し合ったりして，言葉の響きやリズムに親しむ。
		(ｲ)呼びかけに対する応答遊び，音まね・声まね遊びなど，声や言葉を使った遊びや関わりなどを通して，節を付けて歌ったり動作化したりするなどして，言葉の響きやリズムを体感したり，楽しんだりする。	(ｲ)わらべ歌遊びなど，節を付けたり動きを併せて行う遊びややり取りの中で，言葉による表現に触れたり，自分でも表現したりすることなどを経験し，言葉による表現に親しむ。		(ｲ)教師や友達などと出来事や経験したことを伝え合う経験を通して，同じ出来事や経験を自分とは異なる表現の仕方で伝えているなど，教師や友達などが使ういろいろな語句や表現に触れる。
		(ｳ)㋐ クレヨン，チョーク，筆，はけ，鉛筆，ボールペン，水性・油性ペンなどの筆記具を用いることで，線などが書けることに気付いたり，書いたものに何らかの意味付けをしたりする。 ㋑ 書いて表現することへの興味・関心を高めながら，書くことに親しむ中で，筆記具の持ち方や，正しい姿勢で書くことを知る。	(ｳ)㋐ 黒板や画用紙などに，チョークや鉛筆，フェルトペン，クレヨンなど，いろいろな筆記具を用いて，線を楽しく書くことに親しむ。 ㋑ 写し書きやなぞり書きなどにより，文字の形を意識したり，筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢を理解したりして，書写の基本を体験的に身に付ける。	書くこと（書写）	(ｳ)㋐ 書いたものを読む相手，書き表す素材やマス，行の大きさ，書く量などに合った筆記具を教師の助言の下に選び，文字や記号，それらを補う図や絵を書く。 ㋑ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書く。
		(ｴ)絵本などに対して，絵に注目したり，教師と一緒に絵本に出てくる言葉や擬声語などを声に出したりして読み聞かせに注目し，絵本や紙芝居，ペープサート，写真やビデオなどに興味をもつ。	(ｴ)読み聞かせに親しんだり，文字を拾い読みしたりして，いろいろな絵本や図鑑，掛図などの資料に興味をもつ。	読書	(ｴ)読み聞かせなどに親しみ，図書資料にはいろいろな絵本や図鑑があることを知る。
思考力，判断力，表現力等	A 聞くこと・話すこと	ア 教師が話し掛ける場面の状況や読み聞かせる絵本の挿絵などを手掛かりに，内容を大まかに把握し，音声を模倣したり，表情や身振り，簡単な話し言葉などで表現したりする。	ア 経験したことなどについて頭の中にイメージしたことと知っている言葉とを照合したり当てはめたりして，言葉を考える。また，言葉を聞いて，その意味や言葉から自分なりに連想されるイメージを思い浮かべる。	内容の把握（聞くこと）	ア 絵本の読み聞かせなどを通して，出来事の内容の大体を聞き取り理解する。
		イ 身近な人から話し掛けられた状況を受け止め，関心をもって話し手を見たり，音声で模倣したり，返事をしたり，簡単な言葉で表現したりする。	イ ３語から４語で構成する文による指示や説明を聞き，その指示等に応じた行動をする。		－

国語

中１段階	中２段階	高１段階	高２段階
(ｷ)明瞭な発音で文章を読んだり，ひとまとまりの語や文として読んだりするなど，言葉の響きやリズムなどに注意して読む。	(ｷ)文章全体を大づかみに捉えたり，登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら，音読する。	(ｷ) 適切に内容の大体を捉えるために，文章全体の構成を意識しながら音読する。	(ｷ) 文章の構成や内容を理解することに加え，自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読したり，朗読したりする。
(ｱ)複数の事柄などが，一定の観点に基づいて順序付けられていることなど，情報と情報との関係について理解する。	(ｱ)事物の説明や経験の報告や感想を述べる上で，考えとそれを支える理由など，明確にすることが大切な情報と情報との関係について理解する。	(ｱ) 考えとそれを支える理由や事例，話や文章の全体とその中心的な部分など，情報と情報との関係について理解する。	(ｱ) 様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし，結び付けて捉えるなど，情報と情報との関係について理解する。
―	(ｲ)情報を集めたり発信したりする場合に必要な語や語句の書き留め方や，自分と相手の考えの比べ方など情報の整理の仕方を理解し使う。	(ｲ) 話や文章を理解したり表現したりするため，観点を明確にした比較や分類の仕方や辞書や事典の使い方など情報の整理の仕方を理解し使う。	(ｲ)複雑な事柄などを分解して捉えたり，多様な内容や別々の要素などをまとめたりするなど，情報と情報との関係付けの仕方を理解し使う。
(ｱ)自然や季節の情景を表した言葉を用いた俳句などを聞いたり作ったりして，言葉の響きやリズムに親しむ。	(ｱ)易しい文語調の短歌や俳句の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして，言葉の響きやリズムに親しむ。	―	(ｱ) 言葉のリズムを実感しながら読めるもの，音読することによって内容の大体を知ることができるような親しみやすい古文などの文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむ。
(ｲ)年賀状や暑中見舞いなどの挨拶状や，時候の挨拶に書かれた語句や文を読んだり書いたりし，季節に応じた語句があることや，その使い方を知る。	(ｲ)生活に身近なことわざや，交通安全や火災予防など日常生活の中で目にすることの多い標語などを知り，使うことにより様々な表現に親しむ。	(ｱ) 生活の中でよく用いられるなじみのあることわざや慣用句などの意味を知り，ふさわしい場面で使うようにする。	(ｲ) 生活の中で使われる慣用句，故事成語などの意味を知り，周りの人が使った時に，その意図を捉え場面を理解したり，日常生活で使ったりする。
㋐姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，文字の形が整うよう注意しながら，丁寧に書く。 ㋑点画の接し方や交わり方等の点画相互の位置関係，長短や方向等の関係性などに注意して文字を書く。	㋐点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書く。 ㋑漢字や仮名の大きさ，配列に注意して読みやすい文や文章を書く。	㋐ 文字の組み立て方の仕組みを理解して，形を整えて書く。	㋐ 用紙（原稿用紙，便箋，履歴書，半紙，画用紙，模造紙，布，金属，ガラス）全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めて書く。 ㋑ 生活や学習活動など文字を書く場面で，目的に応じて使用する筆記具(鉛筆，フェルトペン，毛筆，ボールペン，筆ペンなど)を選び，その特徴を生かして書く。
(ｴ)読書に親しみ，内容や記し方によって物語や自然や季節などの美しさを表した詩，紀行文といった種類に分類できることを知る。	(ｴ)読書する本や文章の種類，分野，活用の仕方など幅広く読書に親しみ，本には物語，昔話，絵本，科学的な読み物，図鑑などいろいろな種類があることを知る。	(ｳ) 幅広く読書に親しみ，疑問が解決したり，自分の興味が広がったりする楽しさを味わったりして，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。	(ｴ) 読書の楽しさや有効性を実感しながら，日常生活の中で主体的，継続的に読書に親しみ，読書によって新たな事柄や考えを知ることや，自分とは異なる立場で物事を考えることができるようになることに気付く。
ア　身近な人の説明や話，簡単な放送や録音などを聞き，指示や説明に応じることができるように，簡単なメモを取りながら聞いたり，分からないときは聞き返したりして話の大体を捉える。	ア　身近な人の話や放送などの内容や話し方に関心をもって聞き，話している事柄の順序や要点を書き留めたり，分からない点や確かめたい点を質問したりして，内容の大体を捉える。	ア 社会生活における様々な場面で聞く話について，話の内容や話し方に関心をもち，事柄の順序など，話の組み立て方を意識しながら，話の要点を聞き，話の内容を捉える。	ア 社会の中で関わる人の話などについて，話し手の目的だけでなく自分が聞きたいことの中心を明確にして，その内容を捉える。
―	―	―	―

国語

内容		小１段階	小２段階	小３段階	
思考力，判断力，表現力等	A 聞くこと・話すこと	ウ　伝えたいことを思い浮かべ，話題について，表情や身振り，音声で，模倣したり応答したりする。	ウ　体験したことなどについて，相手に伝えたいことを思い浮かべ，自分の知っている言葉に当てはめようとしたり，表そうとしたりする。	内容の検討（伝えること）	イ　絵や写真などを手掛かりに，経験したことを振り返り，伝えたいことを検討する。
		―	―	構成の検討（伝えること）	ウ　見聞きしたことのあらましやその際の自分の気持ちなどについて当てはまる言葉を探したり，話す順番などについて検討したりする。
		―	エ　挨拶などの日常生活や遊びに必要な言葉のやり取りを繰り返したり，物語などの一場面を取り上げて，台詞を言ったりする中で，言葉や表現に慣れ，身に付けていく。	表現（伝えること）	エ　挨拶や電話の受け答えなど，相手への伝わりやすさを意識して，決まった言い方を使う。 オ　正しい姿勢で音読するなどの活動を通して，明瞭に発音することに加え，相手との距離や場面に応じて声の大きさに気を付けて話す。
		―	―	話し合うこと（伝え合うこと）	カ　相手の話に関心をもち，話のおおよそを捉え，自分の思いや考えを相手に伝えたり，相手の思いや考えを受け止めたりする。
	B 書くこと	ア　人との関わりや出来事について，見聞きしたことや感じたことなどを具体物や絵，写真などを手掛かりにして想起したり，相手に伝えたいことを考えたりする。	ア　経験したことの中から楽しかったことなどの伝えたいことを，具体物や絵，写真などを手掛かりにしながら，経験したことを想起したり，具体的な言葉を用いて考えたり，表そうとしたりする。	題材の設定と情報の収集	ア　身近で見聞きしたり，経験したりしたことについて書きたいことを見付け，書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして，ノートやカードに書き出したり，言葉を補う写真や絵などの資料を集めたりする。
		―	―	内容の構成	イ　見聞きしたり，経験したりしたことから，経験した順序や説明する際の具体的な内容の順序など事柄の順番に沿って簡単な構成を考える。
		イ　伝え合う手段として文字があることに気付き，教師が文字を書く様子を見ようとしたり，身の回りにある様々な文字に対して指さしをしたり，教師等が文字を書く様子を模倣して，自分なりの書き方で文字に見立てた形を書く。	イ　事柄を表したり，伝えたりするために，決まった文字の組み合わせがあることを知り，具体物や絵，写真などと単語や文字カードとを一致させられるようになり，表したい平仮名を形作るために，見本となる文字をなぞったり，書けるようになった文字をマスの中に書いたりして表す。	書き表し方	ウ　見聞きしたり，経験したりしたことについて，児童が取り上げた対象や自分の思いを文字や短い文として書き表す。

国語

中１段階	中２段階	高１段階	高２段階
イ　身近な出来事や自分が経験したことを想起し，興味や関心の度合い，伝えたい思いの強さを手掛かりに，話したい，話し合いたいことを一つに決める。	イ　興味・関心を大切に話題を決め，相手や話す目的に応じて，自分の伝えたいことを明確にし，必要な事柄をまとめる。	イ 社会生活における人との関わりの中で，目的に応じて，自分や相手が興味・関心をもっていることから話題を決め，集めた材料が話題と合っているか確かめるなど，伝え合うために必要な事柄を選ぶ。	イ 目的や意図，場面や状況を考慮して話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合う内容を検討する。
ウ　見聞きしたり経験したりした事実や自分の気持ち，意見，人への伝言などを話すために，伝えたい事柄を順序立てて構成する。	ウ　見聞きしたことや経験したこと，自分の意見やその理由について，内容の大体が伝わるように，必要に応じて理由や事例を付け加えながら，話を構成するなど伝える順序や伝え方を工夫して考える。	ウ 自分の伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるよう話の構成を考える。	ウ 話の中心に加えて自分の立場や結論など内容が明確になるよう事実と感想，意見とを区別したり，詳しい説明を付け加えたりして，話の構成を考える。
エ　自己紹介や電話の受け答えの際には，丁寧な言葉を使うなど，話す相手や目的に応じた言葉遣いを考えて話す。	エ　相手に伝わるように，発声や声の大きさ，速さに注意したり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方，相手を見る視線など，表現を工夫したりする。	エ 相手に伝わるように，相手との親疎や人数，目的や場の状況などに応じて，声の出し方や言葉遣い，視線，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫する。	エ 実物や画像，映像などの資料を活用して補足や強調をしたり，聞き手の興味・関心や情報量などを予想して，どのような資料を用意すればよいか考えたり，資料の提示の仕方について検討したりして自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
オ　相手の話の内容や話し方などに興味や関心をもって聞き，大体の内容を整理したりまとめたりして分かったことや感じたことを伝え合い，伝え合ったことを通して，自分の考えや感想をもつ。	オ　物事を決めるために，司会者，提案者，参加者の役割の中で互いの考えの共通点や相違点などを確認しながら，話合いを進め，考えをまとめる。	オ 目的や進め方を確認し，司会者，提案者，参加者などの役割に応じて話合い，共通点や相違点に着目し，一つの結論を出したり，話し合われたことに対する自分の考えをまとめたりする。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら，話合いの内容，順序，時間配分等に加え，目的や方向性を事前に検討し話し合い，複数の視点から検討し，自分の考えを広げたり，互いの意見の共通点や相違点，利点や問題点等をまとめたりする。
ア 見聞きした事や経験したことの中から，興味や関心に応じて伝えたいことを見つけ，書くために必要な事柄を思い出したり想像したりしてノートやカードに書き出すなどして，内容を整理し大まかにまとめる。	ア　相手や目的を意識し，見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び，情報を整理しながら伝えたいことを明確にする。	ア 相手や目的を意識して，書くことを決め，集めた材料を比較し，書く材料を整理し，伝えたいことを明確にする。	ア 相手や目的に加え，場面や状況を考慮し，書くことを決め，集めた材料を比較したり分類したりして，書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめるなど書く材料を整理し，伝えたいことを明確にする。
イ　相手に伝わるように事柄の順序に沿いながら，文章の始めから終わりまでを，内容のまとまりごとに幾つかに分けて配置していく簡単な構成を考える。	イ　書く内容の中心を決め，自分の考えが明確になるように，自分の考えとその理由・具体的な事例など段落相互の関係に注意するなどして文章の構成を考える。	イ 書く内容の中心を決め，中心となる事柄や，それに関わる他の書きたい事柄を明らかにして，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考える。	イ 相手に分かりやすく伝わるように，伝えたいことや知らせたいことを明確にし，首尾一貫した展開となるよう，筋道の通った文章となるように，文章全体の構成を考える。
ウ　前後の語句のつながりを大切にし，一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えるとともに，離れたところにある語と語とのつながりについても考え，語句を組み合わせて文にまとめる。	ウ　事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように，事実を客観的に書くとともに，その事実と自分の考えとの関係を十分捉えて書くようにして，書き表し方を工夫する。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，「なぜなら～」「例えば～」などの表現を用いて，書き表し方を工夫する。	ウ 書く目的や意図を明確にした上で，簡単に書く部分と詳しく書く部分を決めたり，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。引用した文章や図表等の出典については必ず明記するとともに適切な量になるようにする。

国語

内容		小１段階	小２段階	小３段階	
思考力，判断力，表現力等	B 書くこと	―	―	推敲	エ　事柄の順序，語と語や文と文との続き方，長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の使い方などを意識しながら，書いた語句や文を読み返し，教師の指導を受けながら，正しいものに書き直す。
		―	―	共有	オ　書かれたものに対して分からないことについて質問をしたり，感想を述べたりする。
	C 読むこと	ア　絵本の他，紙芝居を読んでもらったり，写真や絵，映像などを見たりすることで，身近にある事物や事柄，生き物などが表現されていることに気付き，注目する。	ア　よく親しんでいる絵本の絵や題名などを見て，どんな登場人物が出てくるかを考えたり，場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で表そうとしたりする。	登場人物の行動や心情把握	ア　絵本や三つから十くらいの場面や段落で構成された読み物について，挿絵を手掛かりに，登場人物の行動や場面の様子などを想像する。
		イ　絵本などを読んでもらったり，写真などの事物の名前などを読んでもらったりした際に，その対象に指さしをしたり，視線や意識を向けたりする。	イ　教師と一緒に絵本などを見て，例えば二つの場面を見比べて，登場人物の様子や行動などの違いに気付いたり，話の内容を読み取ったりする。	内容の把握	イ　絵本や三つから十くらいの場面や段落で構成された読み物について，時間的な順序など，全体に何が書かれているかを大づかみに把握する。
		ウ　場所や動作を表す絵や写真，日常生活で見かけるシンボルマーク，「○」，「×」，「→」といった簡単な記号などの表す意味を感覚的に識別し，自分の思いや要求を表すために選択したり，意味に従って行動したりする。	ウ　身近にあるシンボルマークや標識などに示されている図柄や色などの特徴に気付き，図柄のイメージやそれが置かれている場所などと結び付けて表している意味を考えたり，表された意味に沿った行動をしたりする。	表示等の読み取り	ウ　家庭や学校，地域での生活に必要とされるきまりや立て札，標識に書かれた言葉に沿った行動をする。
		―	―	中心となる情報必要な情報の把握	―
		エ　展開が簡単な話の絵本などを見聞きし，言葉のもつ音やリズム，イメージを感じ取り，それらから次の場面を期待したり，言葉のもつ音やリズム，言葉が表す動作を楽しみながら模倣したりする。	エ　絵本の読み聞かせや自分自身の経験などから，好きな場面を考えて教師や友達に伝えたり，好きな言葉などを模倣したりする。	考えの形成	エ　登場人物になったつもりで，音読したり演じたりする。

国語

中１段階	中２段階	高１段階	高２段階
エ　設定した題材，事柄の順序，語と語との続き方，長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の使い方などを意識しながら自分が書いた文を丁寧に読み返し，間違いを正しく改める。	エ　一文一文を丁寧に読み返す習慣を付け，間違いを正したり語と語の続き方や，表記の仕方や使い方などを確かめたりする。	エ 表記の仕方や，敬体と常体などの文末表現の使い方などに注意しながら読み返し間違いを正したり，書く相手や目的を意識した構成や書き表し方になっているかを確かめたりして，文や文章を整える。	オ 文章全体の構成や書き表し方などについて，内容や表現の一貫性，目的や意図に照らした構成や記述，事実と感想，意見を区別した記述，引用の仕方，図表やグラフなどの用い方などを推敲の観点に，文や文章を整える。
オ　書いた文章を互いに読み，順序の分かりやすさ，語と語との続き方などを観点として感想を伝え合う。	オ　書いた文章を互いに読み，感想を伝え合うことを通して，自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。	オ 互いの書いた文章を読み合ったり，音読し合ったりして，書こうとしたことが明確になっているかなど，その内容や表現について文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付ける。	カ 目的や意図に応じた文章全体の構成が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けたり，互いの書いたよいところを自分の表現に活かそうとしたりする。
ア　簡単な物語や紀行文，詩，短い劇の脚本などを読み，情景や場面の様子や登場人物の行動や心情の変化を把握し，様子を豊かに想像しながら読む。	ア　物語や詩，短い劇の脚本，紀行文，記録や報道の文章など様々な読み物を読み，情景や場面の様子，登場人物の心情などを想像する。	ア 物語全体の登場人物の行動や心情などについて叙述を基に捉えたり，読み進める生徒の心情の変化や自らの経験も手掛かりとして心情を捉えたりする。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて，直接的な描写だけでなく暗示的な表現（行動や会話，情景描写など）にも注意し想像を豊かにしながら捉える。
イ　生活に必要なものの使用法や簡単な料理法の説明書等で時間を表す言葉や接続する語句などを正しく読み取ることで，文や文章の時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。	イ　語と語や文と文との関係を助詞や接続する語句に注意しながら読み，出来事の順序や，登場人物の気持ちの変化など，内容の大体を捉える。	イ 段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に文章の構造を捉え，内容を把握する。	イ 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
ウ　学校や町，公共施設等で見かける名前，表示，標識や案内板，看板やポスター，広告など，日常生活で必要な語句や文章などを読み，意味を考え，行動する。	ウ　日常生活や社会生活，職業生活に必要な説明書や注意書きなどの語句，文章，表示の意味や情報を読み取り，行動する。	**登場人物の心情や情景の想像，優れた叙述と効果** ウ 場面とともに描かれる登場人物の心情や情景について，場面と結び付けて具体的に想像する。	ウ 登場人物の相互関係などを手掛かりに人物像を具体的に想像したり，様々な表現が読み手に与える効果を考えたりする。
—	エ　様々な情報の中から，中心となる言葉や文，情報を適切に選択しながら，内容を捉えて読む。	エ 目的を意識して，文章の構造や内容を基に，中心となる語や文など必要な情報を見付けて要約する。 例：伝記，観察記録文，紀行文，旅行等の諸案内，趣味の工作や料理の作り方	エ 目的を意識して，文章の中から取捨選択したり，整理したり，再構成したり，文章と図表などを結び付けたりするなどして，必要な情報を見付ける。 例：説明書，納品書，請求書，領収書，広報や回覧板の意味，FAX，電子メール
エ　文章を読んで分かったことを印象に残ったフレーズ等を選んで伝えたり，文章全体の印象や内容に対する感想を自分なりの言葉で表現したりする。	オ　文章を読んで構造と内容を把握することを通して，感じたり分かったりしたことを伝えあい，一人一人の感じ方に違いがあることに気付く。	オ 文章の内容や構造を捉え，読んで感じたことや分かったことを基に，自分の体験や既習の内容などと結び付けて，疑問点やさらに知りたい点などを見いだすなど自分の感想や考えをもつ。	オ　文章を読んで理解したことに基づいて，考えとその理由や事例などを整理して自分の考えをまとめる。